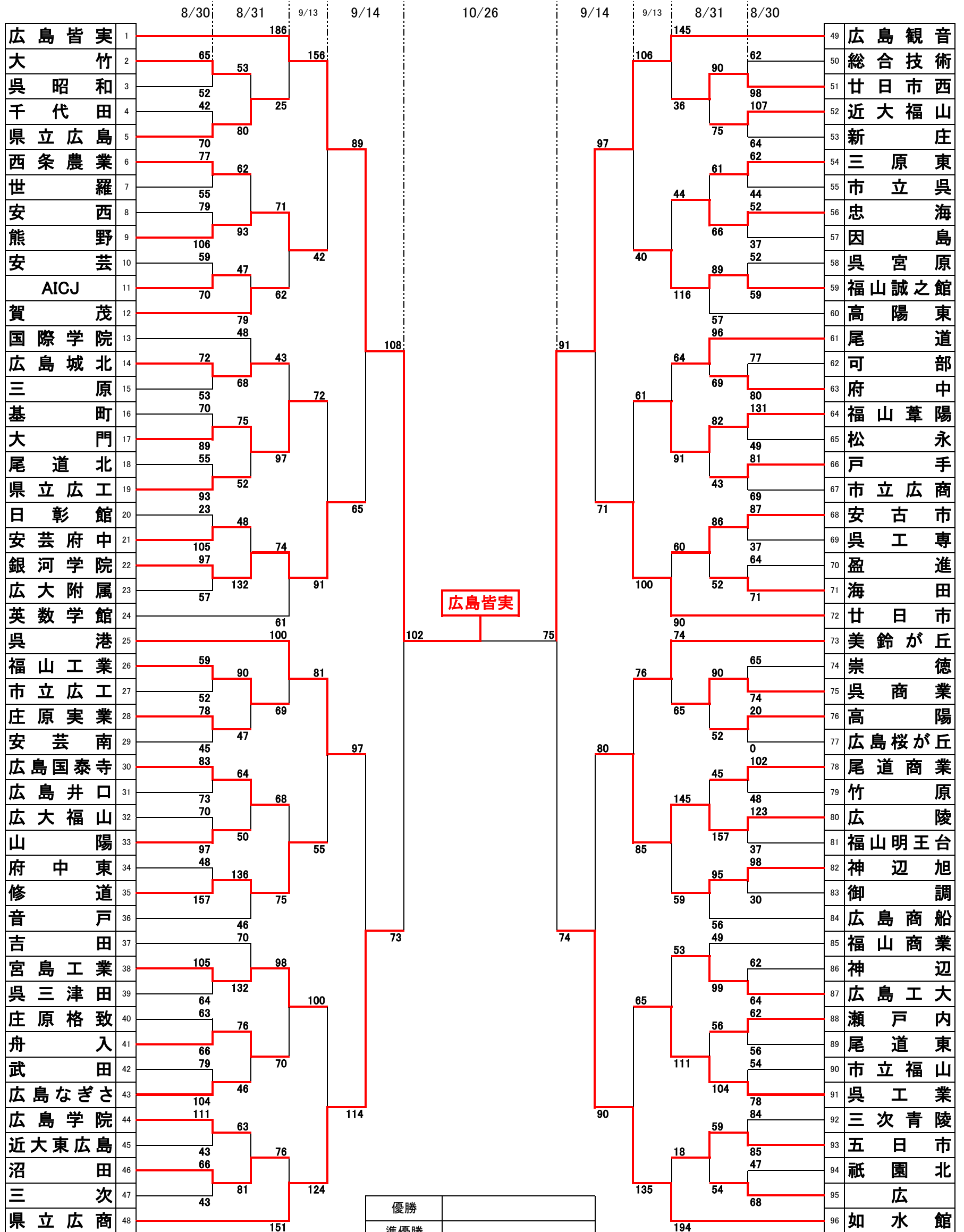


平成26年度 広島県高等学校秋季バスケットボール大会  
兼 第45回全国高等学校バスケットボール選抜優勝大会広島県予選(男子の部)



平成26年度広島県高等学校秋季バスケットボール選手権大会  
第45回全国高等学校バスケットボール選抜優勝大会 広島県大会

広島県高体連バスケットボール部[公式ボックススコア]

試合日	平成26年10月12日
開始時間	13:40~
会場	広島市東区スポーツセンター
コート	O
試合順	第2試合(決勝)

TeamA:		TeamB:
広島皆実	25 - 25 28 - 14 27 - 19 22 - 17	広島観音
102		75

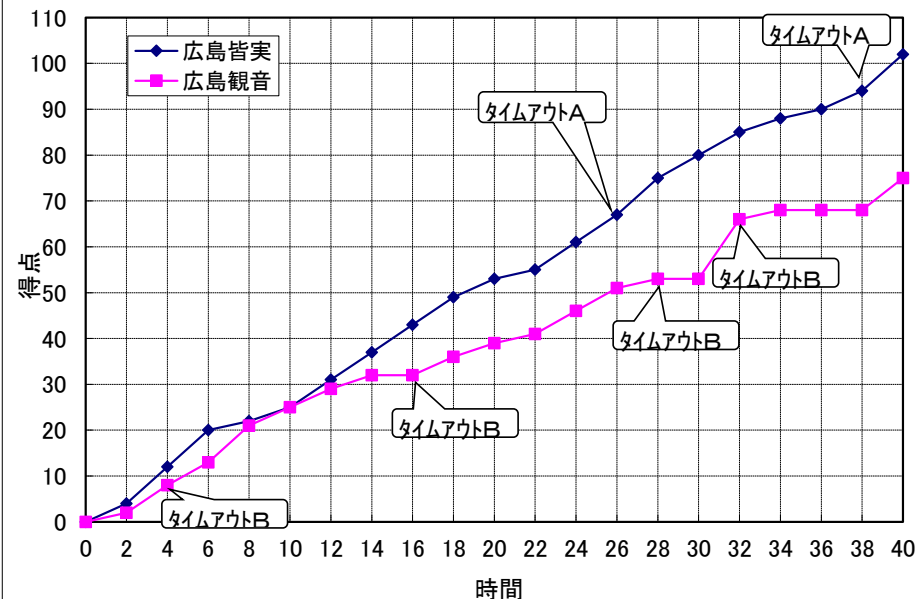
TeamA: 広島皆実

No	S	選手名	PTS	3P		2P		FT		F
				M	A	M	A	M	A	
4	x	佐々井 雄大	4			2	3			1
5	x	山崎 翔梧	19	3	14	5	10			1
6	x	小栗 尚幸	20			7	13	6	6	2
7		豊田 湧一	2			1	3			2
8	x	吉崎 綾汰	15	0	1	6	12	3	6	1
9		津田 克哉	0			0	2			
10		西村 風馬	4			2	4			
11		平田 順也	0	0	1					
12	x	伊森 響一郎	30	4	10	8	13	2	2	2
13		江尻 駿也	2			1	3			
14		濱川 優	0							
15		倉富 千アコ	6			2	6	2	2	1
16		林 聡洋	0							
17		島田 未月	0							
18		新井 泰斗	0							
Coach										
合計			102	7	26	34	69	13	16	10
RATE				26.9%		49.3%		81.3%		

TeamB: 広島観音

No	S	選手名	PTS	3P		2P		FT		F
				M	A	M	A	M	A	
4		大元 薫	0							
5		若菜 雅之	0							
6		馬場 貴大	0							
7		才崎 俊也	0							
8		定森 康樹	0							
9		福田 直樹	10			5	9			3
10		小嶋 廉太	0							
11		溝手 大士	0							
12		倉田 耕佑	2			1	1			1
13	x	米満 敦司	12			4	12	4	4	2
14	x	松岡 裕也	0	0	1					1
15	x	小田 航	13	1	2	5	16			2
16		五反田 健介	16	4	9	2	4			2
17	x	小西 裕貴	18	4	15	3	10	0	1	1
18	x	上園 隼太	4			2	4	0	2	4
Coach										
合計			75	9	27	22	56	4	7	16
RATE				33.3%		39.3%		57.1%		

2分ごとの得点推移



【戦評】

皆実④⑤⑥⑧⑫、観音⑬⑭⑮⑰⑱、両チームともマンツーマンで試合開始。  
1Q、皆実は⑥のリバウンドショット、⑫の1on1でさい先良く得点するのに対して、観音はアウトサイドのショットが決まらない。徐々に皆実がリバウンドを確実にものにし始め、リズムを掴む。残り5分、観音のミスから皆実の速攻が連続したところで、観音1回目のタイムアウト、18-8で皆実リードとする。その後、観音の運動量が増し、速い展開から⑬のドライブ、⑰の2本の3Pなどが決まり、25-25で1Q終了。  
2Qに入り、皆実のマンツーマンが激しさを増す。観音は速い展開からアウトサイドのシュートで応戦するも、シュートが決まらず、リバウンドを皆実に支配される時間帯が続く。残り3分、観音は運動量が落ちてきたところですかさずタイムアウト。45-32、皆実13点リードとする。観音は⑰の3Pで応戦するも、皆実は確実にリバウンドをものにし、53-39と皆実14点リードで前半終了。  
3Q、ペースを上げたい皆実はオールコートマンツーマンでプレッシャーをかける。対する観音も落ち着いたオフェンスを見せ、⑮のリバウンドショットや合わせ、⑰⑱の3Pで得点を重ねる。皆実は、⑥や⑮のリバウンド、フリースローで得点するも試合はこう着し始め、残り3分67-51、皆実リードで皆実タイムアウト。ここで観音は、Defを2-3ゾーンにかえる。皆実⑤⑫の思い切りの良い3Pなどが決まり、残り1分78-56、皆実リードで観音タイムアウト。その後互いに1ゴールずつ得点し、80-58、皆実リードで3Q終了。  
4Q、観音は立ち上がりからオールコートのゾーンプレスで勝負を仕掛ける。激しいDefから皆実のミスを誘い、⑮のゴール下や⑬の速攻が決まる。残り7分、少しペースが落ちたところで観音タイムアウト、85-66皆実リード。その後、観音はハーフコートの2-3ゾーンで仕掛けるも、皆実が思い切りの良い3Pやリバウンドショットをものにしリードを広げていく。観音は果敢にドライブからの合わせや3Pで応戦するも、皆実が終始ゴール下を支配し、102-75で試合終了。

主審	竹内 智己	第1審	恩地 孝明	第2審	中島 淳
記入者	横田 学				